

平成 20 年度 第 1 回海洋開発委員会 幹事会 議事録（案）

日時：2008 年 9 月 19 日（金） 11:00～14:30

場所：土木学会 A 会議室

出席者：高橋委員長，関本幹事長，木村・五明・佐々木・古川の各委員兼幹事，伊藤・鈴木・武田・田島・森屋の各幹事

欠席者：大塚・柵瀬・埴田・東江・矢内の各委員兼幹事，加藤幹事

配布資料

- 平成 20 年度第 1 回 海洋開発委員会 幹事会 次第
- 1－1 平成 19 年度 第 5 回海洋開発委員会 幹事会 議事録（案）
- 1－2 平成 20 年度第 1 回 海洋開発委員会 議事録（案）
- 2 海洋開発委員会活動スケジュール（案）
- 3 土木学会 平成 19 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果について（報告）
- 4 土木学会 土木学会論文集改革の基本方針と実施手順
- 5 「海洋開発特別講演会－海底フロンティア＋イノベーション－」のお知らせ
- 6 第 33 回海洋開発シンポジウムのまとめ
- 7 湿地科学者学会(SWS)アジア部会開催のお知らせ
- 8 特別セッション「大水深海域の水産利用の促進」まとめ
- 9 改革小委員会からの検討事項について

議事内容

1. 委員長挨拶

10 月 24 日に「海洋開発特別講演会－海底フロンティア＋イノベーション－」を実施する。今後ますます委員会の活動を活発にしていきたいので，今日もご議論願います。

1. 議事録（案）の確認

幹事長より議事録の説明があり，メンバーに確認された。

2. 議事録確認

前回議事録について，修正点等あれば幹事長に連絡する。

3. 今後のスケジュール

「2 海洋開発委員会活動スケジュール（案）」に基づき，第 34 回海洋開発シンポジウ

ム（横浜）に向けてのスケジュールの確認を実施。主要な日程は以下のとおり。

【委員会】

2009/02/26(木)：第2回委員会 ※第2次審査の日に合わせて実施予定。

2009/06/29(月)：第1回委員会（次年度）

【幹事会】

2008/09/19(金) 11:00-15:00 第1回幹事会

2008/10/24(金) 12:00-13:00 第2回幹事会

2008/11/28(金)頃（日程調整） 第3回幹事会

2009/02/06(金) 14:00-17:00 第4回幹事会，特別S，見学会，移動教室関連

2009/02/26(木) 14:00-17:00 第5回幹事会，第1次審査（アブストラクト）

2009/04/22(水) 14:00-17:00 第6回幹事会，第2次審査（論文）

2009/05/14(木)頃（日程調整） 第7回幹事会，シンポジウム最終確認

【論文・シンポジウム】

2009/01/15(木)～02/05(木) 第1次投稿（アブストラクト）

2009/02/10(火)～02/23(月) 第1次査読（アブストラクト）

2009/02/26(木) 第1次審査（アブストラクト）

2009/03/02(月) 第1次審査（アブストラクト）の結果通知

2009/03/02(月)～04/06(月) 第2次投稿（論文）

2009/04/07(火)～04/20(月) 第2次査読（論文）

2009/04/22(水) 第2次審査（論文）

2009/04/24(金) 第2次審査（論文）の結果通知

2009/04/24(金)～04/30(木) 第3次投稿（修正論文）

2009/04/30(木)～05/01(金) 第3次査読（修正論文）

2009/05/01(金) 第3次査読（修正論文）の結果通知

2009/05/08(金) 完成原稿の締切

2009/05/11(月) 講演プログラム案作成，完成原稿の確認

2009/05/14(木) 講演プログラム完成

2009/05/15(金) 完成原稿の入稿

2009/05/18(月) 講演プログラムのHP掲載

2009/06/19(金) 論文集発送開始（予定）

2009/06/28(日)～06/30(火) 第34回海洋開発シンポジウム

4. 委員会の評価結果について

平成19年度実績の委員会活動度評価結果は，以下のとおり。

評価項目Ⅰ（参加・関与者数） B，1，746名

評価項目Ⅱ（活動収益額） A，3，464千円

評価項目Ⅲ（重要な活動） A

総合評価 A（H18：B，H17：B）

評価項目Ⅰは、順応的管理小委員会のワークショップの参加者約500名の増加があったものの、A評価に必要な2200名にはいたらず。

評価項目Ⅱは、外海水導入システム小委員会の鉄鋼連盟の受託が大きく寄与。

評価項目Ⅲでは、全28委員会中8番目ぐらいの高評価。ただし、国際化の対応が不十分とのコメント有り。

5. 論文集の改革について

土木学会論文集編集委員会による論文集の改革の基本方針を抜粋すると、以下のとおり。

- 1) 部門制による土木学会の区分を廃止→委員会論文集を土木学会論文集に移行。
- 2) 土木学会論文集（査読付論文）、シンポジウム論文集（査読なし論文）の2本立てとする。
- 3) 新土木学会論文集の査読レベル・論文ページ数は、現行の学会論文集と同程度。
- 4) 論文集の編集査読は、調査研究委員会が実施。
- 5) 各論文集は、少なくとも年1回定期的にJ-Stage上で行う。
- 6) 分野横断的な論文集を新たに刊行する。
- 7) 英文論文集を刊行する。現行の学会論文集の区分に従う。

改革の手順は、以下のとおり。

第1段階（平成20年度）：改革の準備

第2段階（平成22年度）：組織改革と論文集再編

第3段階（平成23年度）：英文論文集発行

第4段階（平成24年度）：新編集体制への完全移行

海洋開発委員会の考え方・対応としては、以下のとおり。

第33回海洋開発シンポジウムについては、これまでどおりの対応とする。

海洋開発論文集：新・土木学会論文集へ移行。

現行の査読体制（3名査読等）で学会論文集の基準は満たす。

英文論文集の刊行：CEJを活用することで海岸工学委員会と合意。

CEJの論文募集ページに追加してもらう項目は今後議論する。

また、海洋開発委員会としての推薦の基準を作る必要あり。

土木学会論文集のクオリティについては、各調査研究委員会で意見が異なっているため、全委員会で統一したものになるとは現状では思えない。

6. 海洋開発特別講演会について

名称：海洋開発特別講演会－海底フロンティア＋イノベーション－

日時：10月24日（金）14:00-17:30

場所：土木学会講堂

内容：①講演会趣旨説明

②海底を知る

- ・ダイナミックな海底地形（仮題），海上保安庁 春日茂氏
- ・資源の眠る海底（仮題），JOGMEC 佐伯龍男氏
- ・海底科学，地球科学（仮題），JAMSTEC 堀田平氏

③イノベーション

- ・イノベーションのフロンティアに挑むーイノベーション実現の3要素，

東京大学教授 坂田一郎氏

③イノベーションは，海洋開発分野だけでなく，政策や開発に従事する人にも参考になる講演になると考えられる．広く周知して，多くの人の参考になればと期待する．

今回の幹事会を当日の 12:00 より開催する．具体的な準備については，10月に幹事長より連絡する．

7. 第33回海洋開発シンポジウムのまとめ

（1）参加者数

記帳者472名と過去最大規模の参加．若干，官公庁と建設会社の参加が少なかった．

（2）論文集

論文数は，過去最大の224編．論文採択率は90%であった．

印刷部数350部に対し，販売部数254部である．今後の販売用は71部ある．CD-ROMを添付する前に比べて，CD-ROMを添付した第31回から，販売数は約1割減となっている．現地販売した20部は売り切れたので，来年度はもう少し現地販売数を増やす．残存部数については，関連する図書館等への寄贈も検討する必要がある．

（3）特別セッションのまとめ

「大水深海域の水産利用の促進」のまとめ論文を配布．意見は木村委員に提出．

「海洋エネルギー」も，忘れないうちにまとめる必要がある．

8. 第35回海洋開発シンポジウム開催地について

横浜の次をどこにするかを今回の幹事会で決定したい．これまでに候補として挙がっている地域は，愛媛・沖縄・函館・鹿児島など．東北もしばらく実施していない．ちなみに，来年度の海岸工学講演会は水戸で，その次は京都大学の順番のため，京都・滋賀・大阪あたりになるだろう．海岸工学と地域が重ならないように留意する必要がある．

また，特別セッションのテーマにふさわしい場所も考慮する必要がある．

9. 改革小委員会からの報告と討議

(1) 特別セッションのテーマ選定

【Option1】 島嶼・離島水域の資源利用と戦略

単年度ならセッションとしてまとまるが、2年続けてのテーマとなりにくいのでは。

【Option2】 生物生活史からの大水深域へのアプローチ～大水深域への回遊と水産

水産に特化しすぎている。むしろ、土木業界と水産業界の共生（協調）システムについて議論してみてもどうか。土木と水産の共通の課題について、森屋幹事がたたき台を作成のこと。

【Option3】 外海水導入プロジェクト

これまでの小委員会の検討のクオリティでは、特別セッションは難しい。

【Option4】 自然共生～順応的管理に続くテーマ

リバーフロント整備センターの「河川に関わる環境整備の経済評価の手引き（試案）」か何かが参考になるのでは。

「東京湾の環境」というテーマは、シンポジウム等をたくさん行っているため目新しさは少ないのではないか。

【Option5】 海洋観光と支援技術

小樽で実施した地元テーマと似ているが、講演者の話はおもしろいものの、ディスカッションにはなにくかった。

「東京湾の土木遺産」というテーマで、新しい技術を導入した事例を紹介してもらうと良いのでは。どちらかという、特別講演会のテーマのような気がする。歴史から学んで将来の技術開発に結びつける戦略が必要。

「先進の港街に学ぶ」というテーマで、開港当時の問題と技術開発、将来的な展望もあるのでは。計画的なものは講演会にして、技術的なものでセッションを組めるとよい。

【Option6】 海洋教育

内容の絞込みが難しい。

【意見1】 海洋調査技術

海洋調査技術の現状を把握し、海洋土木時代に対応するにはどのような調査技術が必要か議論してみればどうか。

【意見2】 地球温暖化と沿岸防災

I P C C のレポートでは年変動がざっくりとわかる程度であるが、季節変化や時系列の変動についての情報を提供していただき、沿岸防災の緩和策や適応策について議論してはいかがか。

(2) 海外案件への取り組みの強化について

①これまで日本で開発された技術の活用先を海外で見出す。（半円形ケーソン）

②海外の大規模プロジェクトに必要な新技術を見出し、研究を活性化させる。（ボスプラス）

技術賞を与える場合にも，論文を1回でも出していることが必要．

（３）その他の活性化策

a) 座長企画型セッション

水関連セッションで試行．最終的には2編のみの応募．対象分野の論文を集めるきっかけとなった．

b) ご当地セッションの定例化

ご当地セッションについては，集客の観点から実施することが望ましいと考える．横浜について，どのようなネタがあるか柴山先生に聞いてみる．

c) シンポジウム終了から次回募集までの間の活性化

- ・海洋開発特別講演会の定例化
- ・ **Engineering Letter** の発行

d) **Committee Letter** の発行（企画意図なども含む）

委員会からのメッセージとして，レターを発行してみてはいかがか（1月：海洋開発シンポジウム募集にあたり，6月：海洋開発シンポジウム開催にあたり，9月：海洋開発シンポジウムを終えて）．

編集者の負荷が大きくなるので，幹事長と相談して，発行するかどうか決めること．

10. 研究小委員会からの報告

（１）順応的管理小委員会（古川小委員長）

第1回アジア湿地会議（湿地科学者学会(SWS)アジア部会）が，10/23-26に台北で開催．海洋開発特別講演会と時期が重なるが，参加の呼びかけをお願いしたい．アブストラクトの締切は9月30日．現在，古川，国総研岡田氏，他1名が投稿中．口頭発表のセッションのひとつで「順応的管理」のあり方を中心とした議論を実施する．

来年度の12月に第2回アジア湿地会議を実施予定．ワークショップかシンポジウムを行う．土木学会への補助申請について要確認．

（２）外海水導入システム小委員会（佐々木小委員長）

昨年度と同様なやり方で研究を行うことは困難なため，今年度は学生の研究に対して，委員に意見をもらうやり方を考えている．

今年度は手続き上，鉄鋼連盟からの受託はないが，来年度は鉄鋼連盟の研究費等の支援は可能と言われている．

(3) アセットマネジメント小委員会（森屋委員）

前回の委員会で報告してからは具体的な活動はしていない。次回は10月3日に実施。海岸4省庁が実施した構造物の劣化調査の報告がメインとなるだろう。

11. その他

広報WGより、「HPの議事録の更新が滞っているので、確定版をいただきたい。」との意見有り。高橋委員長より、古い議事録（案）は、適宜アップロードされたしとのコメント有り。

次回の幹事会は、10/24(金)12:00より開催する。

以上